

相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会

報 告 書

(案)



令和 3 年〇月

相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会

はじめに

相模原市は、平成 11 年 5 月、市民の健康と文化、福祉の向上を図ることを目的に、北清掃工場の余熱を有効利用して、通年利用が可能な温水プール等のスポーツ・レクリエーションを中心とした複合施設として「北市民健康文化センター」を開所しました。

この施設は、子どもからお年寄りまで幅広く利用され、年間 20 万人を超える利用者の方々に親しまれています。そのような中、開所から 20 年以上が経過し、施設の老朽化が進行していることから、私たちは、「北市民健康文化センターの在り方検討委員会」として、社会情勢や利用状況等を踏まえ、施設の現状や課題の整理、活用方法の検討など施設の在り方等について、検討を重ねてまいりました。

少子高齢化の進行や人口減少、高度情報社会の進展、ライフスタイルの多様化など私たちを取り巻く状況は大きく変化する中、公共施設の果たす役割も変化しています。

北市民健康文化センターが、本検討委員会の検討により、今まで以上に、より多くの市民に親しまれ、そして、地域に愛される施設になるとともに、幅広い年代の人たちが交流し、ここを拠点として様々な活動を展開するようなプラットフォームに生まれ変わることを期待しています。

令和 3 年〇月

相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会
委員長 原田 尚幸

目 次

はじめに

1	施設の現状等について	1
2	施設の課題について	9
3	施設のコンセプトについて	10
4	施設の機能・規模について	12
5	まとめ	13

【参考資料】

・ 検討委員会名簿	14
・ 検討経過	14
・ 検討委員会設置要綱	15
・ 検討委員会会議録（第1～3回）	16

1 施設の現状等について

(1) 施設の設置目的

市民の健康の保持及び増進並びに文化及び福祉の向上に寄与するため
(相模原市立市民健康文化センター条例第2条)

(2) 施設の概要

項 目	内 容
所在地	緑区下九沢 2,071 番地 1 (市街化調整区域)
面 積	【敷地面積】 9,072.88 m ² 【建築面積】 4,454.68 m ² 【延床面積】 9,069.68 m ²
構 造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨 地下1階・地上3階
開 所	平成11年5月3日
諸室等	【スポーツ・レクリエーション施設】 プール (一般用 (25m)、子供用、幼児用、流水)、ジャグジー、スライダー、採暖室 【福祉的施設】 障害者用プール、浴室、大広間、娛樂室 (洋)、談話室 (和)、リフレッシュルーム (浴室前ロビー)、健康相談室 【文化的施設】 多目的会議室、講習室、陶芸窯、展示コーナー ※当初は、軽食・喫茶等のサービスあり ⇒現在は、多目的ルーム (簡易トレーニング室) として利用
駐車場	地下 (65 台分)、施設周辺 3 箇所 (106 台分)
駐輪場	100 台

(3) 施設の利用状況について

ア 施設の利用者数 (平成29年度～令和元年度)

- ・ プールの1日当たり利用者数 (3か年平均) は約 580 人。
※内訳は、子ども 47%、大人 35%、高齢者 18% (3か年平均)
※利用者の最も多い8月のプールの1日当たり利用者数 (3か年平均) は約 1,270 人。
- ・ 浴室の1日当たり利用者数 (3か年平均) は約 190 人。
※内訳は、高齢者 87%、大人 12%、子ども 1% (3か年平均)
- ・ 会議室及び講習室の利用率 (利用数/総コマ数) は、2割弱から3割弱と低い。
※会議室が 17～19%、講習室が 23～27%。
- ・ 陶芸窯の利用率 (利用数/総コマ数) は、8割強から5割強へと減少傾向。
- ・ 障害者プールの1日当たり利用者数 (3か年平均) は約 30 人 (介助者数を含む)。
※利用者の最も多い8月の障害者プールの1日当たり利用者数 (平成29年8月は休所中のため2か年平均) は約 50 人。
※1階プールの障害者利用は3か年平均で1日当たり約 38 人、利用者の多い8月は

1 日当たり約 60 人。

※首都圏では、曜日・時間で障害者専用コースを設定する施設が多数。障害者の専用・優先時間帯を設定する施設もある。

《施設ごとの利用者数一覧》

施 設 名 称			平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
有 料 施 設	プール	年間	183,979	176,450	137,316
		一日当たり	582	562	597
	浴室	年間	45,510	59,363	48,572
		一日当たり	209	189	187
	会議室	年間	6,109	6,532	5,818
		一日当たり	19	21	22
		稼働率	19%	17%	19%
	講習室	年間	3,727	3,293	2,495
		一日当たり	12	10	10
		稼働率	27%	27%	23%
	陶芸窯	年間	334	270	223
		稼働率	84%	65%	55%
多目的ルーム (簡易トレーニング室)	年間	5,344	5,780	5,049	
	一日当たり	17	18	19	
無 料 施 設	障害者プール	年間	3,823	9,409	8,056
		一日当たり	23	30	35
	大広間 (休憩・カラオケ等)	年間	8,109	8,370	7,819
		一日当たり	25	27	30
	談話室（和） （談話・休憩）	年間	4,354	3,940	2,962
		一日当たり	14	13	11
	娯楽室（洋） （囲碁・将棋）	年間	9,669	10,904	8,597
		一日当たり	30	35	33
	ロビー （1階ホール）	年間	5,106	3,675	2,527
		一日当たり	16	12	10
	展示コーナー	年間	3,502	2,291	2,111
		一日当たり	11	7	8
リフレッシュルーム （浴室前ロビー）	年間	5,626	5,970	4,859	
	一日当たり	18	19	19	
合 計		年間	285,192	296,247	236,404
		一日当たり	975	943	981

※一日当たり利用者数は、年間利用者数を開所日数で除して算出

イ 施設の利用者満足度

令和元年度利用者アンケートによると「満足」と「やや満足」と回答された人の割合は約 90%であり、利用者の満足度は高い結果となっている。

ウ 学校プールの受入について

北市民健康文化センターでは、現在、指定管理者の自主事業として、近隣の大沢小学校、大島小学校、二本松小学校の 5・6 年生のプール授業（令和元年度：3 校 17 回）を受け入れている。

《参考》小学校児童数

学 校 名	5 年 生	6 年 生	小 計	1～4 年 生	特別支援学級	合 計
大沢小学校	146 人	161 人	307 人	531 人	30 人	868 人
大島小学校	82 人	89 人	171 人	318 人	16 人	505 人
二本松小学校	97 人	88 人	185 人	297 人	15 人	497 人

（４）施設の維持管理経費について

- ・指定管理料として、毎年、約 1 億 6 千万円～8 千万円を支出。
- ・施設の収入は、利用料収入が約 20～25%、指定管理者の自主事業収入が約 5～6%。
※利用料収入の約 88%がプール、約 11%が浴室で合わせると 99%を占める。
- ・施設の劣化が進行し、平成 29 年度以降、指定管理料とは別に市が支出する修繕料が、多額になっている。

《指定管理者の収支決算報告》

(円)

項 目		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
収入	指定管理料	159,066,361	160,778,258	177,561,677
	利用料収入	60,124,304	58,290,926	46,895,672
	事業実施収入	14,187,370	16,331,406	12,463,093
	その他の事業収入	1,820,859	1,862,952	2,162,305
	合計	235,198,894	237,263,542	239,082,747
支出	人件費	120,904,834	121,708,556	91,352,209
	物件費	110,545,107	121,439,608	135,005,197
	(うち修繕料)	(9,817,744)	(9,843,039)	(9,921,665)
	事業運営費	9,370,060	8,716,759	8,212,742
	合計	240,820,001	251,864,923	234,570,148
収支差額		-5,621,107	-14,601,381	4,512,599

《指定管理料とは別に市が支出した修繕料》

(円)

項 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
修繕料	58,405,320	25,322,738	40,053,520

(5) 施設を取り巻く状況等について

ア 緑区の将来人口（2015 年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計）

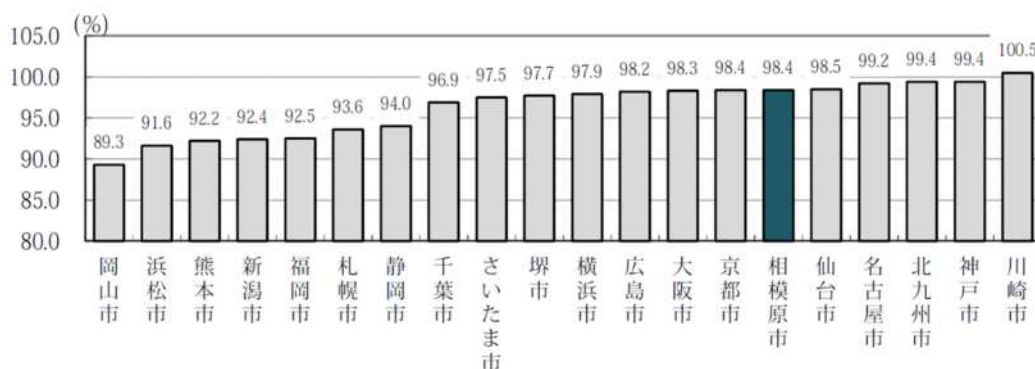
- ・緑区の人口は、今後一貫して減少すると推計。
- ・高齢者人口（65 歳以上）比率は、20 年後の 2040 年には 37.6% となり、40 年後の 2060 年には 41.9%まで増加すると推計。
- ・年少人口（0～14 歳）比率は、年々減少し、20 年後の 2040 年には 10.0% となり、40 年後の 2060 年には 8.7%まで減少すると推計。

緑区	実数（人）				比率（%）			増減率 2015年比 （%）	自然動態 （人）	社会動態 （人）
	総人口	年少 人口	生産年齢 人口	高齢者 人口	年少 人口	生産年齢 人口	高齢者 人口			
2015年	173,612	21,524	108,940	43,148	12.4	62.7	24.9	—	-166	-239
2020年	171,019	19,395	102,689	48,935	11.3	60.0	28.6	-1.5	-568	-121
2025年	167,041	17,494	98,573	50,974	10.5	59.0	30.5	-3.8	-872	-69
2030年	164,653	16,502	95,651	52,500	10.0	58.1	31.9	-5.2	-1,092	-68
2035年	158,403	15,800	88,433	54,170	10.0	55.8	34.2	-8.8	-1,335	-53
2040年	151,182	15,105	79,260	56,817	10.0	52.4	37.6	-12.9	-1,493	-32
2045年	143,411	13,999	72,841	56,571	9.8	50.8	39.4	-17.4	-1,552	-19
2050年	135,542	12,634	68,135	54,773	9.3	50.3	40.4	-21.9	-1,572	-4
2055年	127,743	11,377	64,214	52,152	8.9	50.3	40.8	-26.4	-1,539	4
2060年	120,023	10,437	59,275	50,311	8.7	49.4	41.9	-30.9	-1,567	4
2065年	112,219	9,796	54,140	48,283	8.7	48.2	43.0	-35.4	-1,579	7

イ 市の財政状況（他都市比較で見る相模原市財政の状況（平成 29 年度普通会計決算））

平成 29 年度の経常収支比率（注）は 98.4% となり、指定都市 20 都市中 14 番目で、本市の財政が硬直化した状況を表している。

なお、平成 30 年度は 98.1%、令和元年度は 99.8%となっている。



（注）経常収支比率：

人件費、扶助費、公債費等の経常的経費に地方税、普通交付税等を中心とした毎年度経常的に収入される一般財源がどの程度充当されているかを表し、財政構造の弾力性を示す指標

ウ 相模原市コミュニティバス「せせらぎ号」の運行

交通不便地区における高齢者等移動制約者の生活交通を確保するため、平成 18 年 1 月から運行開始。経路は、「アリオ橋本」「橋本駅南口」から「北の丘センター」「北総合体育館」を経由して「相模川自然の村」までの約 7.5 キロ。所要時間は片道約 30 分（1 本／時間）。

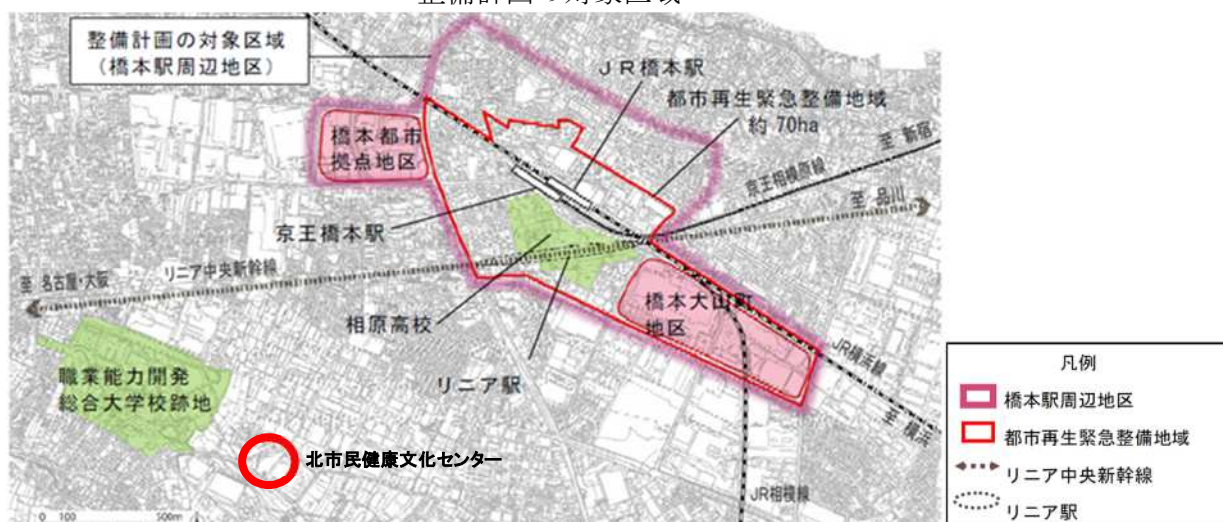
《注》運行継続条件（2 年連続して満たさない場合は、運行廃止）

「1 便あたりの輸送人員が 10 人以上であること」かつ「運賃収入が車両償却費等を除いた経常費用の 50% 以上であること」

エ リニア中央新幹線の駅の設置

令和 9（2027）年には、リニア中央新幹線の駅が橋本駅周辺に設置される予定であり、土地利用転換の可能性を含め、まちづくりの発展性が非常に高くなることが見込まれている。

整備計画の対象区域



出典：相模原市広域交流拠点整備計画（一部加筆修正）

オ 北清掃工場からの蒸気供給停止に伴う施設の休所

年 度	休所日	備 考
平成 27 年度	14 日間	5 月
平成 28 年度	14 日間	5 月
平成 29 年度	28 日間	5 月：16 日、11 月：12 日
平成 30 年度	37 日間	5～6 月：20 日、10 月：17 日
令和元(平成 31)年度	59 日間	5～6 月：41 日、10 月：18 日
令和 2 年度（※）	59 日間	5～6 月：25 日、10 月：18 日

3 か年の 10 月は
北清掃工場の基幹
的設備等改良工事
によるもの

※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、4 月 1 日から 6 月 18 日まで休所

カ 周辺地域における避難場所等の指定

本施設は、相模原市災害対策本部要綱において、防災対策上拠点となる施設の「その他の施設」として位置付けられている。なお、大沢地区防災計画における周辺地域の避難場所等の指定については、次のとおりとなっている。

広域避難場所	旧職業能力開発総合大学校	相模原北公園	下九沢団地一帯
避難所	大沢小学校	大島小学校	九沢小学校
	作の口小学校	内出中学校	大沢中学校
救護所	大沢小学校		
風水害時避難場所	大沢公民館（土砂）	大島小学校（洪水）	相模川自然の村野外 体験教室（洪水）

キ さがみはら気候非常事態宣言の表明

本市では、令和元年東日本台風において中山間地域を中心に多数の土砂災害が発生するなど、かつてない規模の被害が発生しました。気候変動のもたらす影響が、誰もが直面する危機であることを市全体で共有し、気候変動への日常の備えや地球温暖化対策の推進などの取組を一丸となって進めるため、**令和2年9月30日、「さがみはら気候非常事態宣言」を表明。**

【宣言に掲げる取組】

- (1) 深刻化する集中豪雨などの自然災害、猛暑による健康被害などから、市民の命と生活、安全を守るため、地域特性に基づく気候変動の影響への適応策に取り組みます。
- (2) **省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用、いきいきとした森林の再生等**に取り組むことで、**脱炭素社会の実現に向け、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。**
- (3) 気候変動問題について、市民、企業、団体、行政等あらゆる行動の主体が情報を共有するとともに、相互に連携及び協力をし、全市一丸となって行動します。

ク 未来へつなぐさがみはらプラン 相模原市総合計画 ～ 緑区 基本計画 ～

相模原市総合計画の緑区基本計画において、緑区が有する特色や現状と課題を踏まえ、これからの区民とともに創る緑区の目指す姿等を次のとおり定めている。

実る緑区 緑区の目指す姿 ～都市と自然がつながり合うまちを目指して～

《目指す姿を実現するための3つの視点》

多様性を生かした、交流のまちづくり

住み続けたいまちづくり

つながりと将来性を生かした、にぎわいのあるまちづくり

《取組目標》

「育て合う・学び合う」まちづくり

「認め合う・支え合う」まちづくり

「守り合う・助け合う」まちづくり

「創り合う・つながり合う」まちづくり

「自然と共存し、生かし合う」まちづくり

「交流し、高め合う」まちづくり

ケ 相模原市都市計画マスタープラン

相模原市都市計画マスタープランにおいて、相模原北公園は「みどりの拠点」として位置付けられており、みどりの保全を図るとともにスポーツ・レクリエーションなどの利用や防災の観点から整備を推進することとしている。



コ 持続可能な開発目標（SDGs）との関係

持続可能な開発目標（SDGs）は、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された平成 28（2016）年から令和 12（2030）年までの国際目標です。17 のゴールから構成され、本施設に関連する主なゴールは次のとおり。



■ S D G s の 17 の ゴール

出典：国際連合広報センターWEB サイト

サ 情報通信技術（ICT）の進展

平成の約 30 年間で情報通信技術は、目覚ましい進展を遂げ、社会の利便性向上や生活様式の変化に大きく寄与し、社会基盤（インフラ）として必要不可欠なものとなりました。

今後は、更に AI（注 1）、IoT（注 2）、第 5 世代移動通信システム（5G）等の新たなテクノロジーの進展が見込まれ、業務効率の向上や業務負担の軽減、人口減少社会がもたらす様々な課題の解決に向けて、情報通信技術の活用は非常に有効な手段となります。

注 1：AI (Artificial Intelligence)

日本では「人工知能」と訳される。一般的には「人間に代わって計算したり判断したりできる高性能なコンピューター、又はそのためのソフトウェア」や「知能があるかのように振る舞える人工物」といった認識が広がっているが、明確な定義はない。

注 2：IoT (Internet of Things)

インターネット技術や各種センサー・テクノロジーの進化等を背景に、パソコンやスマートフォン等従来のインターネット接続端末に加え、家電、自動車、ビルや工場等、世界中の様々なモノがインターネットとつながること。

2 施設の課題について

施設の利用状況や維持管理状況等を踏まえ、次のとおり課題を整理する。

《プール》

- ・屋内プールにも関わらず利用者数に偏りがあるため、**年間を通じて活用される施設**にする必要がある。
- ・学校のプール授業を受け入れている実績から天候に左右されず質の高いプール授業につながる可能性や、学校のプールの維持管理経費の削減等を踏まえ、**プール授業の更なる受入を検討する必要**がある。
- ・人口減少や高齢化社会が進行する中で、これまで通りウォータースライダーや流水プールなどの**レクリエーション機能の性質が強い施設**とするか**検討する必要**がある。

《障害者プール》

- ・利用状況や首都圏のプール施設の状況等を踏まえて、**在り方を検討する必要**がある。

《会議室等》

- ・会議室及び講習室の稼働率が低く、また、無料で利用できる**大広間や娛樂室**については、受益者負担の観点から有料化の検討について外部監査から指摘を受けており、**機能変更を含めて在り方を検討する必要**がある。

《余熱利用》

- ・北清掃工場からの**余熱を最大限に活用した運営**や、**蒸気の供給が停止する期間**においても施設が有効活用されるような施設の在り方を検討する必要がある。

《共通》

- ・本施設の魅力を高めるため、**近隣の公共施設等の機能や役割、周辺の自然環境**を踏まえ、施設の在り方を検討する必要がある。また、**近隣施設等との連携が必要**である。
- ・多額の維持管理経費が発生しているため、**維持管理経費の削減とともに利用料収入の増加を図る必要**がある。
- ・市民サービスの向上、施設の効率的な運営、財政負担の軽減を図るため、**情報通信技術の活用、施設の改修等や運営を一体的に考えるなど民間事業者の参入を促す施設の在り方も検討する必要**がある。
- ・リニア中央新幹線の駅が橋本駅周辺に設置されるなど、**今後、周辺地域への人の往来や交流の増加が見込まれる**ことを踏まえ、**長期的な視点からも施設の在り方を検討する必要**がある。

3 施設のコンセプトについて

1 施設のコンセプトについて

今後の施設の運営や機能等を検討する上で基本となる施設のコンセプトを次のとおり設定する。

(1) だれもが健康になれる施設

子どもから高齢者までが心身ともに健康を育むことができる場所

(2) だれもが学べる施設

気軽に、多目的に利用ができ、スポーツや文化など様々なことを学ぶことができる場所

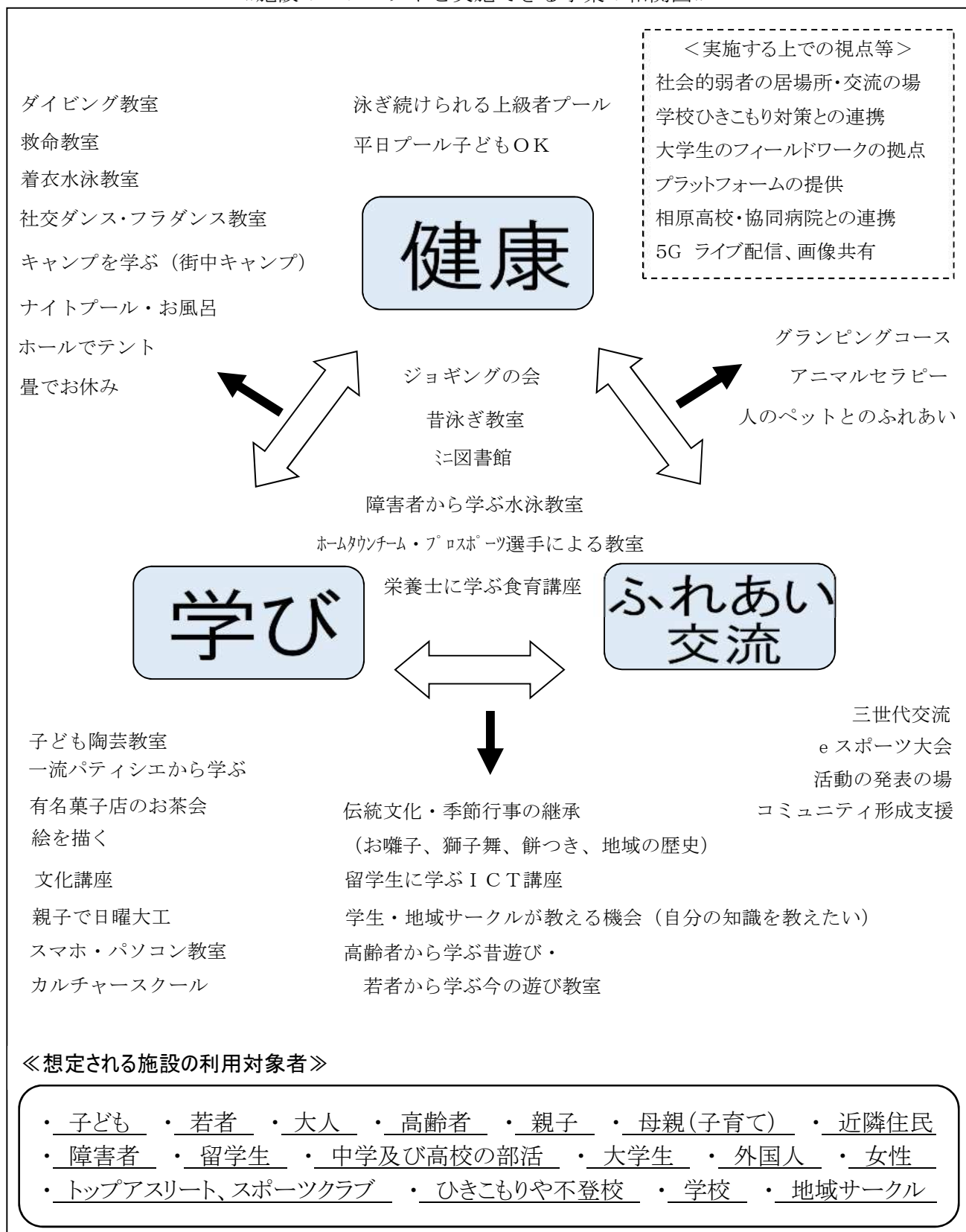
(3) 幅広い世代がふれあえる・つながる施設

様々な事業や気軽にふらっと集まれるスペース等を通じ、幅広い年齢層がふれあえる場所

2 施設のコンセプトから実施できる事業について

3つのコンセプトから施設で実施できる事業等を洗い出し、次のとおり整理した。

《施設のコンセプトと実施できる事業の相関図》



4 施設の機能・規模について

施設のコンセプトや実施できる事業をイメージし、施設に必要な機能及び規模について、次のとおり整理した。

	現施設にある機能等	必要度	改 修 案
1 階	プール		
	25mプール		
	流水プール		
	子供・幼児用プール		
	スライダー		
	ジャグジー		
	展示コーナー		
	多目的ルーム		
	《自由記載欄》		
2 階	障害者プール		
	15mプール		
	ジャグジー		
	多目的会議室		
	講習室 ※陶芸窯有		
	娯楽室（洋）		
	談話室（和）		
	《自由記載欄》		
3 階	浴室		
	一般浴室		
	ジャグジー		
	低温サウナ		
	リフレッシュルーム		
	大広間（和）		
	《自由記載欄》		
その他			

5 まとめ

施設のコンセプトや、機能・規模の検討結果を総括してまとめる予定です。

参考資料

検討委員会委員名簿（令和３年２月３日現在）

No.	氏 名	所 属 等	備 考
1	あさひ 朝日 ちさと	東京都立大学都市環境学部教授	
2	えんどう けいじ 遠藤 啓治	中小企業診断士	
3	こばやし みちこ 小林 美智子	橋本地区まちづくり会議委員	
4	さとう かねお 佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議代表	
5	はらだ なおゆき 原田 尚幸	和光大学現代人間学部教授	委員長
6	いわもと あきら 岩本 晃	相模原市市民局次長	

（行政職員を除く五十音順 敬称略）

検討経過

月 日	内 容
令和２年９月９日	第１回検討委員会 （現地視察、利用状況、課題等）
令和２年１１月６日	第２回検討委員会 （課題、コンセプト、導入機能案の検討等）
令和３年２月３日	第３回検討委員会 （コンセプト、導入機能案の検討、取りまとめ等）

相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、相模原市立北市民健康文化センター（以下「センター」という。）の活用方法、利用者ニーズに対応した機能拡充等、今後のセンターの在り方を検討するため、相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）の設置について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 検討委員会は、次の事項について検討する。

- (1) センターの現状と課題の整理に関すること。
- (2) センターの活用方法に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員6人以内をもって組織し、委員は市長が選任する。

- 2 検討委員会に委員長を置く。
- 3 委員長は、委員の互選により定める。
- 4 委員長は、検討委員会の会務を総理する。
- 5 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、選任の日から令和3年3月末日までとする。ただし、検討状況等を勘案し、市長が必要と認める場合は、1年を限度として延長することができる。

- 2 前項の任期の期間中に委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 検討委員会の会議は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、検討委員会の会議の議長となる。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 検討委員会の庶務は、市民協働推進課で処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和2年8月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行後、最初に召集される検討委員会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず市長が招集する。

検討委員会会議録（第１～３回）

会議名 (審議会等名)		第１回相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会		
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話０４２－７６９－９２２５（直通）		
開催日時		令和２年９月９日（水） 午前１０時４０分～正午		
開催場所		相模原市立北市民健康文化センター ２階 多目的会議室		
出席者	委員	６人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	４人（市民協働推進課長、他３人）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１ 開会 ２ 委員長の選出 ３ 施設の現状等について ・施設の概要及び利用状況等について ・施設の課題等について ４ 閉会		

施設見学に続いて、第1回検討委員会が開催された。
主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 委員長の選出

設置要綱第3条第3項の規定に基づき、委員の互選により原田委員が委員長に選出された。

3 施設の現状等について

- ・施設の概要及び利用状況等について
- ・施設の課題等について

事務局より資料に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

【主な意見等】

- 北清掃工場からの余熱提供に当たって、指定管理者は対価を支払っているのか。また、指定管理者が実施する修繕と市が実施する修繕の区分けはどうなっているのか。
- 余熱提供の対価は発生していない。また、修繕について、原則250万円を超えるものは、指定管理料とは別に市が予算化し実施している。
- 検討委員会の検討結果はどのように扱われるのか。また、本検討において、公共施設の保全・利活用基本指針の延床面積の削減目標については、どこまで制限を受けるのか。
- 検討委員会の検討結果等を踏まえて民間事業者へのサウンディング調査を実施するなど、今後の検討材料の一つとさせてもらいたい。また、延床面積の削減目標については、市施設全体で達成を目指すもので、本施設単体での削減は必須ではない。
- 障害者プールでなければ利用ができない利用者はいるのか。また、施設の利用料が増額になった場合に他の民間施設を利用するかなどについてどのように見込んでいるか。
- 障害者プールを利用している方が他施設を利用できないかどうかは不明である。また、利用料の増額に伴う他の民間施設の利用については把握できていない。
- 市内の公共施設で、他に余熱を利用した施設があるか。
- 市内のプール施設において余熱を利用しているのは、本施設と南区にある市民健康文化センターの2箇所である。
- 老人福祉センター溪松園にある機能を北市民健康文化センターにも設置することは無駄ではないか。同じ時期に同じような改修をするのはもったいないため、一緒に検討する必要があるのではないか。
- まずは、検討委員会等を通じて個別施設の在り方に関する意見等を取りまとめ、その後、市側において他の施設を含めた全体的な調整をしていくこととなる。
- 公民館とは異なり、会議室等の稼働率が低いのは、北市民健康文化センターという名称や位置付けでは仕方がないことなのか。延床面積の削減目標等を踏まえる

と稼働率の低い機能は削減することが考えられるが、その場合に健康文化センターと言えるのかどうか。

- 今後の検討においては、この施設にどのようなものが必要で、どのような施設にしていきたいのかご意見をいただきたい。既存施設のまま改修する、何かに特化した施設としてスリム化するなどが選択肢として考えられる。また、施設の廃止も選択肢としてない訳ではなく、施設の特色を出し、大規模改修や建替えなど様々な手法を検討していきたい。
- 利用率が低い要因としては、公共施設でありながら特定の人を利用し、他の人が利用しにくい環境になっていることも考えられる。何を重視し、何を見直すのかの議論も必要になる。施設の老朽化に伴い、建替えや廃止の議論は全国的に出ている話題である。例えば、学校からプールがなくなろうとしていて、周辺の公共施設でプールの授業ができないかという動きもある。本施設で実施する場合に、本当にウォータースライダーが必要なのかという議論があつてしかるべきではないか。市の財政状況を踏まえると、施設の拡充はあり得ないだろう。
- 公共施設マネジメントの観点から施設の方向性や検討する上での制限があれば情報提供してほしい。
- 本検討委員会が立ち上がったことを踏まえると、本施設の必要性はある程度、認識されていると考えられる。
- 条例の目的を踏まえると、従来の機能を維持する考えになるが、市の財政状況や公共施設マネジメントの観点を無視できない。本施設には、他の政策目標で設置された施設と重複する機能がある。多くの自治体において、公共施設の低い利用率が常態となっている。この施設・機能があるという供給側の発想では利用者はついてこない。指定管理者が地域と連携したイベントを企画するなど運営への依存が強くなっているため、施設が多機能であれば良いという訳でもない。
- 条例の目的は、健康、文化、福祉というように幅広い内容であり、どのような機能であっても条例の範囲内であると考えられる。現在の機能全てを維持しなければならないとは考えていない。必要な機能の意見をもらい、施設の改修なのか建替えなのか手法も検討することになる。どちらの手法でも金額的な上限は同程度を想定し、建替える場合は施設をコンパクトにする必要があるのではないかな。
- はじめは制約を設けず自由に議論し、落ち着いたところで現実的なことを踏まえてどのような施設が良いかまとめていきたい。大規模改修に係るアンケート調査の回答者数が少ないのが気になる。
- 参考までに大規模改修に係るアンケート調査結果をお示ししたもので、この意見に縛られずにご検討いただければと考えている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により施設の在り方としても様々な制約を受けることが想定される。どのような施設を目指すのか仮説を立てながら検討する必要がある。
- 現在、施設で実施しているアンケート調査結果については、本検討委員会にも情報提供させてもらいたい。
- 今後の検討に当たっては、施設を利用していない人や、地域住民の意見が参考になる。公共施設マネジメントなどに関するアンケートでも構わないので情報提供

してほしい。

- 本検討委員会に地域の各種団体等で構成する橋本及び大沢地区のまちづくり会議から委員として御参画いただいているため、地域の意見の吸い上げ方は、調整させてもらいたい。
- 本施設の目指す姿について、どのような状況になっていけば良いという指標があるのか。また、市民が利用を選択できる公共施設の運営については、民間事業者の得意分野だと思われるが、市が直営でなければならない部分はあるのか。
- 本検討における指標は設定していないが、指定管理者のモニタリングにおいては、施設の利用者数や自主事業の参加者数を指標として設定している。また、制限に関係なく自由なご意見をいただきたいと考えている。
- 現状よりも施設利用者を増加させたという形になれば良く、それが指標の一つになるのではないか。
- 一般的な建築物について建設から20数年での建替えはあり得ないのではないか。何らかの収支を改善する見直し方策や、施設の改修方策があるのではないか。20年前とは時代が異なることや、本施設に隣接する北総合体育館や相模原北公園との連携の視点を持っておくと良いのではないか。
- 本施設にはネーミングライツが導入され、「LCA国際小学校」の名称が入っている。当該小学校は、以前、中央区横山地区に立地していたが、数年前に本施設の隣に移転してきた。地区住民の中には、本施設は公共施設ではなく、当該小学校のプールであるとの印象を持っている人が多いため、市民への周知が必要である。

4 閉 会

以 上

会議名 (審議会等名)		第2回相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会		
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話042-769-9225 (直通)		
開催日時		令和2年11月6日(金) 午前10時～正午		
開催場所		相模原市緑区合同庁舎 4階 集団指導室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	4人(市民協働推進課長、他3人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 施設の課題等の整理について (2) 施設のコンセプト、機能等の検討について 3 閉会		

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 施設の課題等の整理について

事務局から資料に基づいて説明し、施設の課題等の確認を行った。主な意見等は以下のとおり。

【主な意見等】

- 今後の検討においては、施設を取り巻く状況や現在の利用者の声など現状としてしっかりと捉えつつも、将来に向けてどのように施設を活用していくのかなど、施設の在るべき姿について議論していきたい。

(2) 施設のコンセプト、機能等の検討について

委員長の進行により資料に基づいて、施設のコンセプト及び機能等の検討をワーク形式で行った。

【主な意見等】

《施設のコンセプトについて》

- 施設のコンセプトは今後の議論にとって大切である。他の自治体の事例等を踏まえても、3つのコンセプトを設定し、その関係性から事業等を検討すると様々なアイデアが生まれる可能性が高い。また、このコンセプトは、施設の改修や運営において踏まえてもらいたい。

※順次、コンセプトの確認等を行い、「だれもが健康になれる施設」「だれもが学べる施設」という2つのコンセプトについては、概ね方向性が確認された。

- 3つ目の「幅広い世代がふれあえる・つながる施設」については、「ふれあい」と同義で「交流」という表現もある。

- 「ふれあい」の方が、優しい表現で良いのではないか。

- まちづくり会議では、子どもから高齢者・障害者まで幅広く利用し、「交流」ができる施設になると良いという意見があった。

- 「ふれあい事業」と「交流事業」では少し印象が異なるように感じる。この後の議論を踏まえて、どちらが相応しいか検討しても良いのではないか。

- 今後の議論を踏まえ、どちらか一つに決定することとしたい。また、これ以降の検討においては、「健康」「学び」「ふれあい・交流」という3つのキーワードから検討を進めることとしたい。

- いずれのコンセプトにおいても、「楽しく」や「生き生き」という動機付けになる考え方が前提にある方が良い。また、人口の変化や情報通信技術の進展など、30年後の姿を見据えて検討していきたい。

《施設の機能等について》

施設の機能等の具体的な検討に入る前に、3つのコンセプトから施設で実施できる事業を検討したのち、全体で共有した。

【主な意見等】

- 「学び」「ふれあい・交流」については、どちらも受け身のイメージがある。学生がサークルやゼミでの活動を地域の人に教える機会や、ICT 先進国の中国や韓国からの留学生による ICT 講座など、学ぶ人が教える側になる形もあるのではないかな。そのほか、ひきこもりや不登校支援などで児童・生徒が活用できる場所や、他の人が飼っているペットと触れ合う癒しの機会、ジョギングの会のようなやり方を学べるもの、中学校の部活動や大学生などがプロスポーツ選手やスポーツクラブと触れ合える機会があっても良い。
- この施設をプラットフォームとして様々な人に使ってもらい、相互作用を発生させる考え方は良いのではないかな。プロスポーツ選手を管理する栄養士による子どもの食育講座も考えられる。相模原市には、サッカー、ラグビー、アメフトのトップアスリートを抱えるクラブチームがある。地域の方にその知識や実技を教える場があっても良いのではないかな。また、普段の活動や持っている知識を地域に広めたい団体と市民が出会う場を提供することや、いじめや発達障害を抱える方などがこの施設に来れば安心できるような場所にするのも地域においては大切なかもしれない。社会的弱者を分けるのではなく、海外のキャンプ場では、障害者と健常者が同じプログラムを一緒にやっている。お互いに補完し、そこから気付きもある。最近は、街中でのキャンプが流行っており、コロナ禍では身近な自然に出ていく人も増えている。始め方が分からない人を対象とした教室も考えられる。
- この施設にはプールとお風呂があるため、キャンプ場でのグランピングコースなどに組み入れられると利用が増えるのではないかな。
- ナイトプールを楽しみ、ホールにテントを張って寝るなどお泊りキャンプ体験も考えられる。
- 伝統的な文化を持っている高齢者と若者との交流の場にしてはどうか。簡単な昔ながらのことを伝えていけるような場になると良いのではないかな。また、スマートフォンやパソコンの苦手な人が 60 歳台から数多くいるため、図書室のような若者から高齢者まで一緒に利用できる部屋があると良い。
- 相模原市やこの地域に根差した歴史や伝統的なものはあるか。そうしたものを子どもたちや次の世代に伝えていくことも考えられる。
- 大沢地区では、伝統的なものとして 8 月のお祭りで獅子舞がある。
- 橋本地区では、ひょっとこ踊りを練習している小学校もある。
- リニア中央新幹線の影響で住民が増えた際、その土地の文化や歴史に触れる機会があまりないのではないかな。他の自治体で新・旧住民の間に軋轢が生じた例もあり、伝統文化の継承が軋轢の軽減に機能するのではないかな。この施設は文化的機能も担うことが、単なるスポーツ施設とは異なる特徴的な部分である。利用者の増が目的ではなく、文化継承の受け皿としての施設も良いのではないかな。
- 子どもは昔遊び、お年寄りは今遊びを相互に学べる機会や、障害者と健常者を分けるのではなく、両者が一緒に使える施設として、泳ぎの得意な障害者から学べる機会があっても良いのではないかな。また、子どもが陶芸窯を使ってお皿ではなく人形をつくる教室、一流パティシエによるお菓子教室、有名和菓子屋によるお茶会、ダイビングの資格講座、救命教室、社交ダンス会場、高齢者による昔泳

ぎ教室などが考えらえる。大学のフィールドワークとして学生が利用し、地域との交流が生まれると良い。

- 陶芸ができる講習室は、工夫すると様々な使い方があるのではないか。絵を描くことや、親子で日曜大工をすることもできる。また、社交ダンスのほか、フラダンスのような利用用途や、親子、三世代を対象にした事業も考えられる。
- 社交ダンスなどのカルチャースクールや、施設に隣接する県立相原高校や相模原協同病院と連携した事業も良いのではないか。以前、この施設でお囃子を実施していた。地域にはお囃子に取り組んでいるところもあるため、年に数回発表できる機会があると良い。
- 南区の市民健康文化センターにはステージがあり、文化的な活動の発表もできる。この施設も余裕のあるスペースをステージとするような改修も考えられ、文化的な継承につながる可能性がある。昨今、学校や地元企業は、地域での存在意義を求められるため、各種事業で連携の余地はあるのではないか。
- この施設をプラットフォームとして、スポーツと趣味に特化したミニ図書館があっても良いのではないか。また、この施設でインターネットにより画像が共有できたり、発信できたりすると良い。e スポーツが良いのかは分からないが、楽しく運動ができ、コミュニティの形成にもつながるような、継続して行きたくなる施設になるとそれぞれの活動の幅が広がっていくのではないか。
- 直接、e スポーツ大会をホールで開催することも考えられる。良し悪しは別として、国民体育大会や次のアジア大会の正式種目への採択が決まっている。デジタル世代やスポーツに興味のない人に、この施設の存在を知ってもらうプロモーションの役割も考えられる。
- 着衣水泳など教育的な目的や余熱利用という施設の活用を踏まえると、ほぼプールはなくならないのではないか。後は、どのような施設でどのような使い方をするのかということになる。この施設の弱点は、余熱の供給停止によりプールの休所がまとまった期間で必ずあることである。提案のあった文化プログラムなどの提供により、プールが休所してもこの施設を有効に使える試みができるのではないか。
- 各委員から提案のあったイメージを共有しつつ、資料3「2施設の機能・規模」部分に、現施設の必要度を10段階で示し、改修内容や条件等をご記入いただきたい。現施設にない機能で、必要な機能があれば別途記入いただきたい。次回は、この点数等を参考にしながら、各施設を具体的にどのように変更していくべきなのかをまとめていきたい。
- コンセプトの「ふれあい・交流」については、これまでの議論を通じて、どちらが適当か決定いただけるか。
- 次回、具体的な機能等を検討する中で、どちらのコンセプトが適当か検討し、最終決定することとしたい。
- コンセプトは3つあるが、実施する事業に異なるコンセプトが融合しているところに意義があるため、この3つを1つにまとめて象徴するようなものがあると良いのではないか。
- 次回の検討委員会まで時間が空いてしまうため、普段、何かの折に触れてアイデ

アが思い浮かんだらメモして、次回検討委員会において披露してもらいたい。また、身近な友人等と本日の議論を共有していただき、良いアイデアがあれば、引き続き共有をお願いしたい。

3 閉 会

以 上

